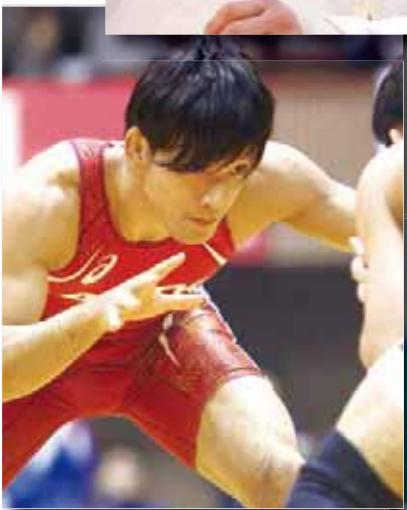


広報はちおうじ Hachioji

8.1

2016(平成28年)
No. 1356



左上から時計回りに、柔道・田代未来選手、柔道・中村美里選手(左)、水泳・青木智美選手、サッカー・中島翔哉選手、セーリング・吉田愛選手(左)、レスリング・高谷惣亮選手

世界を舞台に輝けアスリート

アスリートたちの躍動を目の当たりにして勇気や感動が生まれる、それがスポーツの力です。同じく応援団員の一人であるシドニーオリンピック水泳銅メダリスト田中雅美さんからいただいた「スポーツしやすいまちになることで、市民が健康になれば」とのコメントには、わが意を得たり思います。

本市では既に、4年後の東京オリンピック・パラリンピックに向けた取り組みを始めています。東京大会の気運を高めながら、障害の有無に関わらず、誰もがスポーツに親しめる環境整備を進めます。市民がスポーツを身近に感じ「元気に暮らせるまち、そんな八王子の未来を思い描いています。

平成29年の市制100周年を迎えるにあたり、本市ゆかりの著名人による「100年応援団」が結成されました。団長に就任した歌手の北島三郎さんは歌で八王子を応援したい」と力強く決意を語ってくださいました。各界で活躍中の団員の皆さんには、それぞれの活動の中で本市の100周年を広くPRしていただきます。

市長コラム



八王子市長
石森孝志
たか ゆき



百年の彩りを 次の100年の輝きへ



インタビュー

「大好き」の力が 夢を叶える

今回で3回目のオリンピック出場となるセーリングの吉田愛選手。国内外の大会で好成績を残し続ける、日本セーリング界のトップランナーです。競技の魅力や子どもたちへのメッセージを聞きました。

風を操り、大きな海をどこまでも翔けていく——その爽快感がセーリングの一番の魅力です。幼い頃から、海や山が大好きでした。八王子では大学卒業まで過ごしましたが、今でも思い出すのは3歳のとき初めて登った高尾山。子どもの足にはつらかったのですが、目標に向かって努力することの大切さを教えてくれた私の原点だと思います。

セーリングへの思いが強くなったのは大学時代ですね。「470級のヨットで世界に挑戦します!」と監督に思いきって宣言したんです。この先もセーリング選手として生きていきたいと覚悟を決めました。

気象条件に左右されるセーリングでは、タフなフィジカルとメンタルが求められます。リオデジャネイロオリンピックに向けては、2年前から現地で合宿を重ね調整をしてきました。リオの海は変化に富んだ厳しい海。攻略は難しいですが、そこにやりがいを感じます。

世界の海で走ることは選手としての私の喜びです。時に気持ちが折れそうになることもありますが、私は目立つことが苦手な子どもでした。けれど今、皆さんの応援や「セーリングが大好き!」という気持ちを胸に、世界の大舞台に臨みます。皆さんもまずは何か好きなことを見つけてみてください。その想いが夢を叶える力になるはずです。

セーリング・女子470級

よしだ
吉田 愛さん

35歳、鶴田小学校卒業。ベネッセセーリングチーム所属。2人乗りの小型ヨットを操るセーリング470級で、今回3回目の出場。ペアの吉岡選手とメダル獲得をめざす。



